留萌市の農業

令和６年度版

地域振興部農林水産課農林係

【　目　次　】

Ⅰ　留萌市農業のあゆみ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
Ⅱ　留萌市農業の構造　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
　１　農家世帯及び農業従事者
　２　耕地面積
Ⅲ　留萌市農業の担い手　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
　１　認定農業者
　２　新規就農者
　３　コントラクター
　４　指導農業士・農業士
Ⅳ　留萌市の農業生産　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５
　１　農産物の作付面積
　２　農産物等の販売実績
　３　畜産実績
Ⅴ　農業に関する制度　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８
　１　中山間地域等直接支払制度
　２　多面的機能支払制度
　３　農業関係制度資金利子補給制度
　４　経営所得安定対策直接支払制度
　５　農業次世代人材投資事業
　６　新規就農者支援事業
Ⅵ　農業振興施設　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
　１　留萌市礼受牧場
　２　礼受牧場畜産館
　３　農村交流センター風土工房こさえーる
　４　農地防災ダム
　５　幌糠農業・農村支援センター
　６　新規就農者支援住宅
Ⅶ　その他　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
　１　土地改良事業
　２　有害鳥獣による農業被害

Ⅰ　留萌市農業のあゆみ

１　開拓以前の留萌農業

１８６０年（万延元年）庄内藩（山形県）より農民が移住し、マサリベツ地区にて開墾しましたが、１８６８年（明治元年）には移住者全員が引き上げました。

漁業を中心に開拓されていた留萌の地では農業の展開は遅れており、明治２０年代後半から進行していくことになります。

２　留萌農業の転機

明治３年以降、現在の市街地近郊のわずかな農地で農業が行われていましたが、明治２９年藤山農場の開拓が転機となり、１５年間で１４４戸の入植者を迎え、藤山地区を中心に留萌農業は発展していくこととなりました。

３　終戦後の留萌農業

第二次世界大戦は徴兵による労働力不足、生産資材の不足などによって農業生産を大きく停滞させましたが、農民による農業協同組合の設立などにより、農業生産の増大、食糧増産に取り組むこととなり、昭和３５年のピーク時には８５８戸が農業経営を行っていました。

４　水田化と機械化

戦後の食糧増産政策によって米の増産が奨励され、造田が急速に進展し、昭和３０年の水田率が３０％程度のところ、昭和４４年には８３％に増加しました。

背景には農業基本法による農業規模の拡大があり、その手段として機械化が推し進められ、留萌においても補助事業を活用しながら機械化が進行していきました。

５　減反政策の影響

戦後の食糧不足から増産政策がとられてきましたが、米消費減退の中で過剰在庫を抱え、昭和５１年水田総合利用対策によって米の生産調整が行われ、これ以降、水田面積や農家が減少していくこととなりました。

６　戦前の作付状況

単位：10a

	米	大麦	小麦	えん麦	裸麦	大豆	小豆	ﾄｳﾓﾛｺｼ	馬鈴薯
明治 19	0	4	0	0	0	19	8	0	3
明治 44	0	800	900	2,000	3,900	4,600	8,000	1,700	1,500
大正 9	800	7	373	5,625	2,805	2,485	2,474	1,086	1,911
昭和 7	2,040	0	0	3,700	410	981	3,323	514	1,002

Ⅱ　留萌市農業の構造

１）農家世帯及び農業従事者数

農家世帯数は年々減少しており、令和６年は令和２年と比較すると１３戸減少しています。

また、就業人数も年々減少し、経営主の平均年齢は６８歳を超えているのが現状で、世代交代が進んでいるものの農業経営の高齢化が進んでいます。

○　農家世帯数、農業従事者数

年度	経営体数	世帯数	農業者名簿登録者			経営主	
			男	女	計	平均年齢	65 歳以上
R2	69	82	86	78	164	68.2	46
R3	64	77	80	74	154	67.2	42
R4	64	77	80	74	154	68.2	42
R5	58	76	72	68	140	67.1	32
R6	56	65	69	66	135	68.8	34

（留萌市農業委員会：農業経営等調書）

２）耕地面積

経営耕地面積については５年間大きな増減はなく、離農した農地も担い手が引き継ぎ、経営を行っています。

○　耕地面積

年度	経営耕地面積（ha）				農地台帳面積（㎡）
	田	畑	樹園地	総面積	
R1	768	50		818	9,245,692
R2	735	76	0	811	9,249,238
R3					9,266,904
R4					9,266,904
R5					9,266,463
R6					9,220,630

（経営耕地面積：農林業センサス）

（農地台帳面積：農業委員会農業経営等調書）

Ⅲ　留萌市農業の担い手

１）認定農業者

認定農業者制度は、経営改善に取り組むやる気と能力のある農業者が「農業経営改善計画」を策定し、その計画を市町村若しくは北海道が認定する制度です。

意欲のある人であれば、年齢・性別等を問わず認定を受けることができ、地域農業の将来を担う意欲と能力のあるプロの農業経営者を育成するうえで、重要な制度となっています。

単位：名・戸

	水稲	水稲 畑作	水稲 野菜	畑作	畑作 野菜	花き	肉用牛 （繁殖）	肉用牛 （肥育）	法人	計
Ｒ２	７	１８	１０	２	６	２	１	０	２	４８
Ｒ３	５	１９	８	２	７	２	１	０	２	４６
Ｒ４	５	１８	８	２	７	４	１	０	２	４７
Ｒ５	５	２０	７	２	６	４	１	０	２	４７
Ｒ６	５	１９	６	２	７	４	１	０	２	４６

（農林水産課調査）

２）新規就農者

新たに農業に従事する新規就農者は、農家出身者が農業以外の職に就いてから就農する「Ｕターン」が１名、学校を卒業してすぐに就農する「新規学卒」が１名、雇用就農を目標とする農業実習生が２名となっています。

	人数	就農形態	前住所	作付品目
Ｒ２	１	親元就農	旭川市	大豆、ピーマン、南瓜
Ｒ３	２	雇用就農 親元就農	留萌市 深川市	水稲、小麦、大豆等 水稲、大豆、飼料作物
	２	農業実習生	留萌市 札幌市	水稲、小麦、大豆等

※Ｒ４～Ｒ６　新規就農者実績なし

３）コントラクター

　コントラクターは、農業機械と労働力を有して農家等から農作業を受託する組織で、農業従事者の高齢化や経営規模の拡大など農業の生産構造が変化する現在においては、地域農業を支える基盤として欠かせない存在になっています。

○　令和６年コントラクター受託実績

	耕　種	受託面積	受託内容
①	そば	41ha	耕起･施肥･播種･防除･収穫･調整･出荷等
②	そば	28ha	耕起･施肥･播種･収穫･調整･出荷等
③	そば	19ha	耕起･施肥･播種･収穫･調整･出荷等
④	水稲	119.4ha	防除

（コントラクター実態調査）

４）農業士・指導農業士

　地域の担い手の育成や地域農業の振興等に関する助言・協力を行う農業者を「北海道指導農業士」、経営改善や地域農業の振興などに積極的・意欲的に活動される農業者を「北海道農業士」として北海道が認定し、その活動を支援しています。

　留萌市では令和６年１２月現在、指導農業士２名、農業士２名が認定されています。

Ⅳ　留萌市の農業生産

１）農産物の作付面積

留萌市における主要作物は水稲で、続いてそば、飼料作物や小麦、大豆などが多く作付けされています。

○　年度別作付面積　　単位：a

	水稲	小麦	大豆	飼料作物	ＷＣＳ	そば	野菜	花き	地力増進作物
R2	42,995.0	6,607.6	4,075.8	8,262.2	1,407.7	10,287.0	924.7	198.4	88.9
R3	40,766.5	6,801.9	4,743.1	8,334.8	1,407.7	10,637.8	872.5	187.2	151.3
R4	39,907.6	7,248.2	4,643.5	8,325.5	1,903.7	9,745.0	811.8	187.2	163.7
R5	39,888.9	8,176.8	4,533.4	7,481.4	1,903.8	8,649.8	546.0	126.2	218.4
R6	40,697.2	8,059.2	3,854.6	7,371.8	1,949.8	8,539.2	572.8	101.6	135.7

※ＷＣＳ・・・飼料用稲　　（留萌市農業再生協議会調べ）

①　稲作

寒暖の差が激しく豊かな森に囲まれた環境のこの地域は、米づくりに適した地域であり、各種コンクールで受賞するなど高品質の米が作られています。

○　品種別作付面積・生産数量（主食・加工・飼料用含む）　　単位：ha、 t

	ななつぼし	ゆめぴりか	その他	合　計	生産数量
R2	260.1	155.1	29.6	444.8	1,993
R3	239.5	158.2	10.0	407.7	1,934
R4	235.9	154.4	8.8	399.1	1,700
R5	219.0	170.9	8.9	398.8	1,644
R6	217.2	167.0	22.7	406.9	1,709

（稲作調査・ＪＡ提供資料）

※その他の品種：きたくりん、おぼろづき、ゆきさやか、ほしまる等

②　畑作物

畑作物については、そばが最も多く小麦、大豆が続いています。

南るもい地域でのみ生産される小麦「ルルロッソ（北海２５９号）」は、留萌市内では１戸で生産されています。

○　種類別生産数量　　単位：ｔ

	小麦	大豆	そば
R2	238	84	88
R3	249	53	54
R4	188	121	84
R5	280	104	51
R6	234	81	61

（ＪＡ提供資料）

③　野菜

市内で生産される野菜は南瓜・スイートコーン・アスパラ・ピーマンが多く、ピーマンについては、ＹＥＳクリーンに登録されており、土づくりを基本に農薬や化学肥料を少ない量に厳しく管理されたクリーンな農業技術で作られています。

○　主要作物作付面積、生産数量　　単位：ａ、ｔ

	南瓜	Ｓｺｰﾝ	ｱｽﾊﾟﾗ	ﾋﾟｰﾏﾝ	ﾐﾆﾄﾏﾄ	ﾎｳﾚﾝｿｳ	ﾄﾏﾄ	ｷｭｰﾘ	ナス	生産数量合計
R2	341.9	97.0	96.8	31.2	14.2	7.0	25.5	1.7	11.2	54.9
R3	358.2	82.5	93.8	56.1	14.5	15.1	16.5	1.7	－	21.5
R4	337.3	41.5	93.8	54.2	14.5	15.1	25.2	－	－	32.8
R5	81.8	38.0	72.5	44.6	14.5	16.4	13.4	－	2.3	25.1
R6	101.5	35.0	72.5	44.6	14.5	16.4	13.4	－	2.3	28.3

（留萌市農業再生協議会調べ・ＪＡ提供資料）

④　花き

夏の冷涼な気候を利用した規格の揃った高品質な花きを生産しており、主力のトルコギキョウは、北限の栽培地として道内外の市場において高い評価を受けています。

○　種類別生産数　　単位：千本

	ﾄﾙｺｷﾞｷｮｳ	ｽﾀｰﾁｽ	ｽｶﾋﾞｵｻﾞ	ﾃﾞﾙﾌｨﾆｳﾑ	ヒマワリ	ﾌﾞﾌﾟﾚｳﾙﾑ	アスター	葉牡丹	その他
R2	131.4	―	―	13.2	5.9	3.7	13.0	10.3	―
R3	118.9	―	―	2.9	5.4	―	20.9	9.0	―
R4	137.0	31.0	10.0	2.7	3.0	―	11.0	―	―
R5	163.8	25.7	25.6	3.2	3.5	2.6	―	12.2	2.3
R6	122	34	21	2	3	3	11	―	8

（花き産業総合調査・ＪＡ提供資料）

２）家畜の飼養実績

市内において酪農を営む農業者はいなく、肉用牛による繁殖・肥育を行う２戸の農業者によって、留萌市の畜産は行われています。

○　年度別肉用牛飼養頭数　　単位：頭

	繁　殖　牛			肥　育　牛			
	成牛	育成牛	子　牛	肥育後期	肥育前期	育成牛	子　牛
R2	35	14	6	61	152	―	―
R3	37	4	25	174	198	―	―
R4	17	7	3	89	282	―	―
R5	4	8	2	148	273	―	―
R6	12	3	8	154	295	―	―

（ＪＡ提供資料）

Ⅴ　農業に関する制度

１）中山間地域等直接支払交付金

農業生産条件が不利な状況にある中山間地域において、農業生産活動の維持と継続、耕作放棄地の防止、多面的機能の確保を目的に、５年以上農業を続けることを約束した農業者に対して交付金を交付する制度で、平成１２年から始まった５年を１期としたこの制度は、令和２年より第５期が始動しています。

日本型直接支払制度として、中山間地域等直接支払・多面的機能支払・環境保全型農業直接支払制度をまとめ、平成 27 年度より「農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律」として法制化されています。

○　活動組織概要

区　分	内　　容
名　　称	中山間地域等直接支払留萌集落　代表　池田　孝明
事 務 局	ＪＡ南るもい幌糠支所
組織構成	農業者 36、法人 2、その他 2　計 40 件
対象農地	急傾斜地（1/20 以上）　61,141 ㎡ 緩傾斜地（1/100 以上）1,844,006 ㎡　　合　計　1,905,147 ㎡
活動内容	《集落対象者の主な共同取組》 ・法面の保護等管理→法面の草刈 ・水路・農道の維持等整備→用水路（草刈、泥上げ）農道（草刈、砂利敷き） ・鳥獣被害対策等→電気牧柵設置（新規設置、既存取替、修繕） ・景観作物の作付→花などの景観作物の作付 ・収益性向上の取組→融雪材散布助成 ・圃場整備助成（作業道、排水改良） 《集落対象者以外も含めた主な共同取組》 ・機械、農作業施設の共同化→融雪材散布機リース ・都市住民との交流活動→田植え・稲刈り体験（食農教育推進協議会） ・病害虫の発生予防活動→水田防除助成 ・生産性向上活動→スマート農業への取組 ・集落機能強化活動→農福連携への取組

２）多面的機能支払制度

地域農村環境の保全と向上、担い手や労働力の確保により、継続した農業生産活動の維持を図っていくため、農業用施設の点検及び機能診断など農地の維持や農村景観形成のための環境保全など、資源向上に係る取組に対し交付金を交付します。

○　対象活動等

項　目	内　　容
農地維持支払	・農用地・水路・農道・ため池の草刈り、泥上げ等の実施 ・農用地・水路・農道・ため池に付随する施設の適正管理 ・異常気象時における見回り＆応急処置 ・交付単価　田：2,300 円/10a、畑：1,000 円/10ａ、草地：130 円/10ａ
資源向上支払	・農用地、水路、農道、ため池の補修等の実施 ・学校教育と連携した田植え・稲刈り体験の実施　・アライグマの駆除 ・地域住民と連携したゴミ拾い・景観形成のための施設への植栽 ・水質モニタリングの実施・記録 ・交付単価　田：1,440 円/10a、畑：360 円/10ａ、草地：90 円/10ａ

○　対象組織

名称	代表者	構成員（名）	面　積（a）		用水路（km）	排水路（km）	ﾊﾟｲﾌﾟﾗｲﾝ（km）	ため池（km）	農道（km）
藤山地区農村資源保全隊	原田　盡一	51	田	19,708	21.1	30.0	4.1	3	25.2
			畑	546					
			草地	345					
幌糠地区農業資源保全隊	池田　孝明	19	田	10,824	9.5	21.3	4.2	2	9.1
			畑	535					
			草地	43					
東幌第２地区農業資源保全隊	佐藤　正繁	22	田	8,272	4.9	11.8	3.3	1	8.6
			畑	246					
			草地	31					
樽真布地区農業資源保全隊	野原　　守	9	田	3,614	0.5	6.2	0	1	2.5
			畑	174					
			草地	0					
峠下地区農業資源保全隊	濱林　　浩	13	田	1,626	1.5	6.5	0.7	0	2.3
			畑	234					
			草地	71					
合計		114	田	44,044	37.5	75.6	12.3	7	47.7
			畑	1,735					
			草地	490					

３）農業関係制度資金利子補給制度

農業経営基盤強化促進法に基づく「農業経営改善計画」に即して、効率的・安定的な経営体を目指す農業者の資金借入に際し、その利子の一部を北海道と市が負担します。

○　実施状況

資金名称	農業経営基盤強化資金
内　　訳	2 名（農舎、農地、農機具、乾燥機）
負担割合	道 1/2、市 1/2
利子補給先	農業者本人

４）経営所得安定対策直接支払制度

生産数量目標に即して主要農産物を生産する販売農業者に対し、生産コストと販売額の差に相当する額を補てんすることにより、農業経営の安定化を図ります。

○　交付金の概要

・畑作物（麦、大豆、そば、なたね）の直接支払交付金（ゲタ対策）
　認定農業者、認定新規就農者が対象で、対象作物に対する数量払
・米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）
　米価下落等の販売収入が標準的収入を下回った場合に補てんされる保険的制度
・水田活用の直接支払交付金（戦略作物助成・産地交付金）
　水田を活用して、麦や大豆、飼料作物などを生産する農業者へ助成金を交付することで、主食用米からの切り替えを促す
　産地交付金については、地域（農業再生協議会）で単価を設定できる

５）農業次世代人材投資事業

次世代を担う農業者を目指す４９歳以下の者に対し、就農準備段階（準備型）や経営開始時（経営開始型）の経営確立を支援する資金として、年間１５０万円を上限に交付します。

○　交付実績

年　度	対象者数	備　考
平成 29 年度～令和 3 年度	2 名	経営開始型
令和 2 年度～	1 名	経営開始型

６）新規就農者支援事業（市単独事業）

留萌市における新規就農者の招致促進を図るため、新たに農業を営み、本市の農業振興に寄与する者に対し、初期投資にかかる費用の軽減や、経営の自立安定化につなげるための支援を行うことで、経営が不安定な就農直後の所得を確保します。

○　支援内容

【農業実習への支援】

・　営農実習支援助成
　営農に必要な資格取得、研修等の経費を年間 10 万円以内で助成

・　住宅支援助成
　家賃の 1/2 を助成（上限：27 千円/月、実習及び就農期間を通算して３年間）

・　実習受入支援助成
　受入指導農家に対し 3,000 円/日を助成（最長３年間）

【新規就農者への支援】

・　農用地等賃貸料支援
　農用地等の賃借料の 1/2 を 5 年間助成

・　農用地等固定資産税負担軽減支援
　取得した農用地等の固定資産税額を 3 年間助成

・　制度資金利子負担軽減支援
　制度資金借入に対する利子の 1/2 を 5 年間助成（借入限度額 500 万円）

・　経営自立安定支援
　就農後 5 年間を限度に前年度総所得に応じて年間 150 万円を助成（国・道の同種の助成を受ける場合は対象外）

・　住宅等改修支援助成
　持家の修繕、増改築に係る費用の 1/10 を助成（就農後５年間以内で１回限り）

・　住宅支援助成
　家賃の 1/2 を助成（上限：27 千円/月、実習及び就農期間を通算して３年間）

・　農業機械等導入支援助成
　初期投資（ハウス、農業機械、器具）の購入又はリース額の 1/4（上限 300 万円）を、就農後 5 年以内で 1 回限り助成

Ⅵ　農業振興施設

１）留萌市営礼受牧場

市内に分散していた小規模の牧場を集積することを目的に、昭和 51 年度から昭和 60 年度にかけて「道営草地開発事業」により 91.7ha の草地を造成。

昭和 52 年度から昭和 59 年度にかけて「国営等草地開発付帯事業」により利用施設を整備し、平成 8 年度から平成 10 年度は「公共牧場機能強化事業」により、草地改良、広場造成、畜産資料展示施設等の整備を行ってきました。

礼受牧場は昭和 54 年度より開設し、当初の実施主体は留萌市農業協同組合でしたが、平成 10 年度からは留萌市が実施主体となり管理運営してきましたが、財政再建化並びに管理者の不在。民間による運営も希望者がいないことから平成 21 年度より休止中となっています。

○　施設概要

住　　所	留萌市礼受町 19 番地ほか			
敷地面積	133.9ha（うち草地 91.7ha）			
建 築 物	名　称	構　造	面　積	建築年
	事務所	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ造・平屋	55.61 ㎡	S54 年
	乾燥庫	鉄骨造・平屋	178.20 ㎡	S54 年
	機械庫	鉄骨造・平屋	80.40 ㎡	S53 年
	畜舎	鉄骨造・平屋	108.00 ㎡	S53 年
	油庫	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ造・平屋	7.56 ㎡	S53 年
	付属牛舎	鉄骨造・平屋	16.20 ㎡	S53 年
	畜産館	木造・２階	233.28 ㎡	H9 年
	畜産館(増築)	木造・平屋	17.01 ㎡	H12 年
	水道滅菌室	木造・平屋	3.24 ㎡	H10 年

２）礼受牧場畜産館

畜産等に対する理解を深めてもらうために整備された施設ですが、礼受牧場の休止に伴い、畜産資料館としての役割を一定程度達したものと考えられます。

市民の憩いの場や観光スポットとしての需要に対して、観光所管と共に今後の利活用方針を検討していきます。

○　施設概要

住　　所	留萌市礼受町 294 番地 1
構造・面積	木造・２階建　250.29 ㎡
建　設　費	53,550 千円（公共牧場機能強化事業）
完成年月日	平成 9 年 11 月 28 日
備　考	平成 21 年には礼受牧場休止に併せ畜産館の休館を検討するも、観光協会より休館の見直しについて要請があり、業務委託を現在も継続。

○　利用実績

年度	R2	R3	R4	R5	R6
人数	7,634 人	3,468 人	4,215 人	4,098 人	5,312 人

３）農村交流センター風土工房こさえーる

都市住民と農村との交流、地場農産物の加工研究を通して、地産地消の普及・啓発を図ることを目的に設置された施設です。

○　施設概要

住　　所	留萌市大字留萌村字留萌原野 17 千 13 番地の 37
構造・面積	鉄骨造り一部木造・平屋　507.45 ㎡
建　設　費	234,037 千円（道営事業/中山間地域総合整備事業）
完成年月日	平成 12 年 10 月 30 日
管理形態の推移	H12～H16　管理委託：ＪＡ南るもい H17～H24　指定管理：藤山萌えるの会 H25～現在　直営管理

○　利用実績

年度	R2	R3	R4	R5	R7.1 月末
件数	168 件	152 件	174 件	158 件	124 件
人数	1,375 人	1,081 人	1,240 人	1,143 人	985 人

４）農地防災ダム

大雨時に河川の水を一時的にダムに貯留し、下流域の農地や農業用施設などを洪水被害から守るため、普通河川に設置された河川管理機能を有する土地改良施設「農地防災ダム」を管理しています。

留萌市が管理する農地防災ダムは、道営防災ダム事業で施工され、北海道が直接管理を行っていましたが、平成 12 年 4 月の地方分権一括法の施行に伴い、安定期に入ったと判断されるダムについては、河川管理者であるダム所在地の市町村に譲与し、市町村が管理する方針が道より示され、平成 23 年から留萌市も譲与を受けることになりました。

○　施設概要

項　目	中幌ダム	樽真布ダム
住所	字奥幌糠 3622 番地 1	字タルマップ 4156 番地 3
工期	S47～H2	S48～H10
流路延長	20.3km（中幌川）	15.5km（樽真布川）
受益面積	191ha（田 176ha、畑 15ha）	256ha（田 204ha、畑 52ha）
受益戸数	36 戸	41 戸
総貯水量	293 万㎥	113 万㎥
洪水吐口水位	69.10m	101.60m
広報水位	68.0m	99.4m

樽真布農地防災ダム

５）幌糠農業・農村支援センター

農作物、園芸作物の生産技術、農産加工品の製造に関する研究、農業の実践的な研修等を通じた担い手の育成及び、農業農村の理解を深める体験交流の推進等を通じて、地域の農業、農村の活性化に資する活動を支援し、本市農業の振興発展を図ることを目的に、平成 28 年 4 月に旧幌糠小・中学校及びグラウンドを転用し、地方創生事業により設置しました。

○　施設概要

住　　所	留萌市大字留萌村字幌糠 1862 番地 1
構造・面積	鉄筋コンクリート造・２階建　2,582.00 ㎡
建設費・完成年月日	255,720 千円　・　昭和 62 年 12 月 15 日
事業内容	（１）農作物、園芸作物等の生産技術の研究及び開発に関すること。 （２）農業の担い手及び後継者の育成に向けた研修並びに新規就農者の受入支援に関すること。 （３）農産物の処理及び加工製造、流通販売に関すること。 （４）都市と農村の交流活動の推進に関すること。 （５）その他センターの設置目的を達成するために必要な事業に関すること。

６）新規就農者支援住宅

農業の担い手確保と農村の活性化を図るため、留萌市に定住する意思のある新規就農者等の住宅として設置しました。

新規就農者や農業実習生、地域おこし協力隊などが活用しています。

○　施設概要

	１号棟（2 棟）	２号棟（2 棟）
住　　所	大字留萌村字幌糠 4023 番地 1	大字留萌村字幌糠 1865 番地 1
構造・面積	木造・平屋　72.49 ㎡	木造・平屋　75.33 ㎡
建　設　費	17,080 千円（2 棟分）	20,280 千円（2 棟分）
完成年月日	昭和 62 年 11 月 1 日	平成 3 年 11 月 1 日
住宅使用料	月額 8,000 円	
備　　考	平成 27 年 8 月教育委員会より所管替え 令和 5 年度より 1 号棟休止中	

Ⅶ　その他

１）土地改良事業

土地改良事業は、農業の生産性向上や農業構造の改善を目的とした、農用地や農業用水路、農道などの農業生産基盤の整備を行うもので、区画整理事業、農地造成事業や用排水施設整備補修等事業のほか、農用地の改良又は保全のために必要な事業で、市町村や土地改良区等が事業主体となる「団体営」と、国や北海道が主体となる「国・道営」の事業があります。

○　近年の事業実績

事　業　名	事業主体	受益面積	工　期	総事業費	主要工事
道営中山間地域総合整備事業	北海道	274ha	H21～25	423 百万円	用排水路 2,763m 区画整理 48ha 暗渠 67ha
団体営基盤整備促進事業	改良区	44ha	H24～25	78 百万円	区画整理 0.7ha 暗渠 44.2ha
道営防災ダム整備事業	北海道	224ha	H30～R6	602 百万円	ダム一式
道営農業競争力強化農地整備事業	北海道	264ha	H30～R8	1,216 百万円	用排水路 8,116m 区画整理 55ha 暗渠 43ha

２）有害鳥獣による農業被害

市内における有害鳥獣による被害はエゾシカが最も多く、続いてアライグマやヒグマ、キツネなどから被害を受けています。

留萌市では平成３０年度に対象鳥獣の捕獲計画や取組内容を示した「留萌市鳥獣被害防止計画（現計画期間令和４～６年度）」を策定し、猟友会留萌部会やＪＡるもい等関係団体によって構成された「留萌市有害鳥獣被害対策協議会」において、被害対策を実施しています。

○　鳥獣別農業被害の状況

鳥獣種類	単　位	R2	R3	R4	R5	R6
エゾシカ	面 積（ａ）	672.4	49.1	529.2	80.4	1,670.9
	金 額（円）	5,533,692	475,501	3,927,904	562,486	4,927,312
アライグマ	面 積（ａ）	153.5	4.3	35.9		98.8
	金 額（円）	1,823,895	43,541	252,058		236,376
その他	面 積（ａ）					108.2
	金 額（円）					874,283
合　計	面 積（ａ）	825.9	53.4	565.1	80.4	1,877.9
	金 額（円）	7,357,587	519,042	4,179,962	562,486	6,037,971

（農林水産課調査）

○　作物別農業被害の状況

作　　物	単　位	R2	R3	R4	R5	R6
水　稲	面 積（ａ）	606.3	51.1	381.9	73.7	491.7
	金 額（円）	6,695,973	517,437	3,798,164	551,248	3,918,252
そ　ば	面 積（ａ）	175.7	2.3	169.0	6.7	212.7
	金 額（円）	48,140	1,605	356,744	11,238	279,478
小　麦	面 積（ａ）					1,073.6
	金 額（円）					1,783,839
ｽｲｰﾄｺｰﾝ	面 積（ａ）	29.6				34.9
	金 額（円）	150,575				24,420
その他	面 積（ａ）	14.3		14.2		65.0
	金 額（円）	462,899		25,054		31,982
合　計	面 積（ａ）	825.9	53.4	565.1	80.4	1,877.9
	金 額（円）	7,357,587	519,042	4,179,962	562,486	6,037,971

（農林水産課調査）

○　捕獲計画頭数

対象鳥獣	R2	R3	R4	R5	R6	R7～
エゾシカ	160	200	300	300	500	500
アライグマ	200	200	200	200	200	200
キツネ	30	30	30	30	30	30
ヒグマ					3	5

（留萌市鳥獣被害防止計画）

○　捕獲頭数

対象鳥獣	R2	R3	R4	R5	R7.2 月末
エゾシカ	190	200	271	400	366
アライグマ	159	151	127	204	116
ヒグマ	1	0	0	1	2

（環境保全課調査）